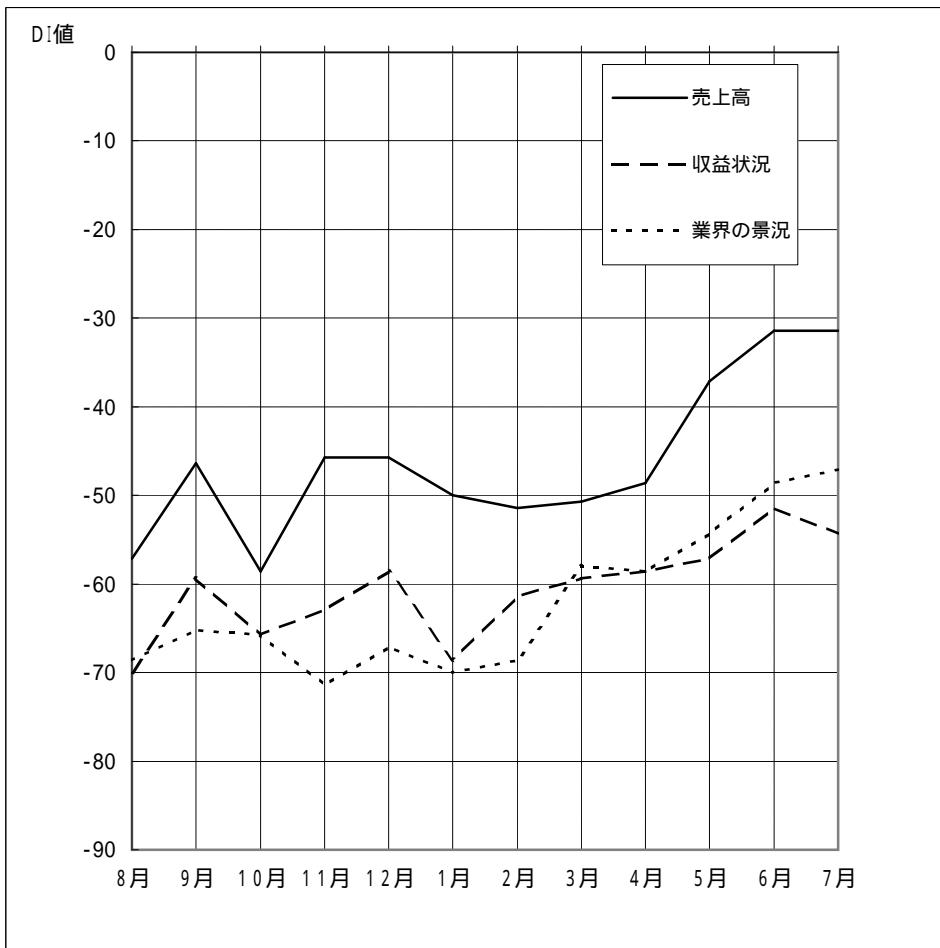


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値
平成14年8月～平成15年7月

単位: ポイント



	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	-57.1	-46.4	-58.6	-45.7	-45.7	-50.0	-51.4	-50.7	-48.6	-37.1	-31.4	-31.4
収益状況	-70.0	-59.4	-65.7	-62.9	-58.6	-68.6	-61.4	-59.4	-58.6	-57.1	-51.4	-54.3
業界の景況	-68.6	-65.2	-65.7	-71.4	-67.1	-70.0	-68.6	-58.0	-58.6	-54.3	-48.6	-47.1

7月のDI値をみると、「業界の景況」で改善が見られ、「収益状況」は悪化した。「売上高」は、先月同様であり、3ヶ月間 -30 ポイント台を維持している。また「業界の景況」は、1.5 ポイントの改善があり、小幅ながら徐々に景況感の活発化が感じられる。しかし、「収益状況」で 2.9 ポイントの悪化があり、今年度1月から徐々に回復してきた値を6ヶ月振りに減少させた。これは「売上高」及び「業界の景況」の改善には繋がらず、逆に悪化させたことからデフレ経済の影響を色濃く反映させた結果であることが窺える。中小企業の業況は、一進一退を繰り返し、依然として厳しい状況下である。

業種別に見ると、製造業では「木材・木製品」、「印刷」、「鉄鋼・金属」で改善があり、先月と比較すると悪化した業種がないために製造業の業況は改善した。しかし、非製造業では改善した業種がなく、悪化した業種として「小売」、「商店街」、「運輸業」で小幅な減少があったために、非製造業で先月よりも業況が悪化した。総体的に先月同様、製造業よりも非製造業のほうが景況感が悪い傾向にある。

組合の特記事項からは、「一般機器」、「鉄鋼・金属」、「木材・木製品」及び「建設業」の一部で需要増の兆しや新商品の開発または、産官学の振興など活発感溢れる報告が見られた。しかし、多くの報告で、冷夏による夏物バーゲンの不振や需要減退と低価格競争で困惑しており、先行きの回復の兆しが見られないことに不安感を募らせている。中小企業の業況は、依然として厳しい状況であることが窺える。